

# 生活者ネットワーク 区議会ニュース 2019年第三回定例会報告号

## 脱原発・脱プラ宣言で 環境に配慮した区政を

第三回定例会(9/4~10/11)が開催されました。

### ■災害時に再生可能エネルギーの活用を

2018年に発生した北海道胆振東部地震に伴う全道にわたるブラックアウトや、今年9月の台風15号による千葉県の広範囲な停電の長期化など、私たちの暮らしは電気なしには成り立たないことを痛感しました。

2011年の東日本大震災に伴う東京電力福島第一原発の事故を経験し、生活者ネットワークは原発に依存せず、再生可能エネルギーを活用した地域エネルギービジョンの策定を要望してきました。

区は2016年に「住宅都市にふさわしい自立分散型エネルギー社会の実現を目指す」とした「練馬区エネルギービジョン」を策定しましたが「脱原発」の文字はなく、「災害拠点病院と近隣の医療救護所をつなぐコジェネレーションシステム（ガスなどを燃料とする熱電併給設備）の創設や、水素や電気自動車を活用した避難拠点の電源確保など、目新しいことに力を入れています。

私たちは、再生可能エネルギーによる市民共同発電所を区が支援し、災害時には区民のために活用できるような「区民との協働」に取り組むことを提案してきましたが、維持管理の責任の所在などを理由に「取り組むつもりはない」と言い続ける姿勢は残念です。

### ■区立施設に再生可能エネルギーの活用を

区の本庁舎の電力は、経済性と安定性を優先に東京電力との契約を継続しています。現在の東京電力管内では、原子力発電所は1基も稼働していないものの、石炭火力発電所の新設や柏崎刈羽原発再稼働に注力する姿勢などは時代に逆行していると言わざるを得ません。

今年度東京都や世田谷区では、環境配慮行動に基づきCO<sub>2</sub>排出量に制限をつけた入札で本庁舎の電力調達をおこなった結果、いずれの事業者も東京電力より再生可能エネルギー利用率がはるかに高く、CO<sub>2</sub>排出量は低くなっています。練馬区でもこのような事例を参考に、環境に配慮した電力調達に努めるべきです。地域から「脱原発」を掲げ、省エネと再生可能エネルギーを最大限活用したエネルギー政策を求めていきます。

### ■脱プラ・脱ペットボトルでプラスチックごみの削減を

電気と同じようにプラスチックも暮らしに欠かせない素材です。

プラスチックごみの海洋汚染が深刻であることはかなり浸透し、ストローやレジ袋の素材を替えるなど企業の取り組みが注目されています。しかし、プラスチックごみの削減は喫緊の課題で、ひとり一人の意識の転換が必要です。

区に関わる会議などの飲み物の提供はペットボトルを使用しない、区立施設の自動販売機はペットボトルを缶などの代替品にするなど、「脱プラスチック・脱ペットボトル宣言」で、区が率先してプラスチックごみ削減に取り組むべきです。

プラスチックによる海洋汚染、温室効果ガスによる地球温暖化は生物の生態系を崩し、異常気象が私たち人間の生活にも大きな影響を及ぼしていることは誰もが認識しています。

スウェーデンの環境活動家グレタさんは、9月の国連気候変動サミットで経済を優先し温暖化に真剣に取り組まない大人たちを叱責しました。環境政策を国任せにせず、地域から環境に配慮した区政をすすめます。



区議会議員 やない克子

保健福祉委員会／交通対策等特別委員会  
ホームページ <http://yanai.seikatsusha.me>



区議会議員 きみがき圭子

区民生活委員会／都市農業・みどり環境等特別委員会  
ホームページ <http://kimigaki.seikatsusha.me>



## 生活者の視点で区政をチェック

2018年度決算約2587億円は「みどりの風吹くまちへ 区民とともにさらに前に進む」と位置付けた予算に対するものですが、その区民とは「賛成する区民」のことであり、異論反論を排除したものでした。このことから決算の認定に反対しました。

- 保育**：予算の67%を子ども・福祉施策に配分したというものの、保育所、学童クラブの待機児童の問題は解決にいたっていない。3歳児1年保育は「あくまでセイフティネットであり、ない方が望ましい」と言っていたにもかかわらず、場所を増やしたことは「切れ目のない保育」という**子どもの最善の利益を保障する保育ではない**。学童保育についても低学年で入れない児童が増え続けている。保育園の在籍状況から先を見越した対策を区が責任を持って急ぐべき。
- 香害**：柔軟剤などに含まれる香りの害「香害」に苦しんでいる人の実態を把握し、その声を受け止めようとする積極的な姿勢が見られない。区はリーフレットを作成して終わりではなく、周知啓発のための取り組みに力を入れ、**特に学校は子どもたちが安心して学べる環境を早急に整備するべき**。
- 高齢者福祉**：高齢化が加速する中、区の福祉施策だけでは支えきれない部分を補う地域の力が必要。いきがいデイサービスや食のほっとサロンなどの地域に密着した介護予防事業は、地域に根ざして活動している事業者や市民団体なくしては成り立たない。実情を把握し、活動しやすいよう支援するべき。  
**在宅介護の要である地域包括支援センターの体制を強化し、ケアラーへの個別相談や多職種、関係機関との連携による支援が必要**。
- まちづくり**：区長は「行政としては積極的にまちを良くしていく」と話しているが、行政の「まちを良くする」視点と地域住民が求める「良いまち」が違うことがあるのは当然。駅前再開発、道路整備の計画はいずれもその地域の住民の暮らしそのものであり、**計画ありきで強引にすすめる区の姿勢を改め必要性から見直すべき**。

一人ひとりの命が大切にされ、戦争のない平和な社会のもとで安心して暮らせる区政を求めました。

### インフォメーション

#### ■ 対話的区政報告会 「区政をもっと身近に！気軽に話しませんか？」

日時 10月26日(土)14:00~16:00 会場 生涯学習センター2階 第2教室 参加 無料  
練馬区議会第三回定例会、委員会視察の報告や一般質問作りにむけた意見交換を予定しています。

#### ■ 第四回定例区議会 2019年11月27日(水)~12月13日(金)

#### ●いまいちばんわかりやすい憲法のお話「檻の中のライオン」 in 練馬

日時：12月19日(木)14:00~16:30 場所：練馬区役所 多目的会議室（アトリウム地下）

資料代：500円 高校生以下無料 企画：きみがき 圭子

講師：ひろしま市民法律事務所所長 弁護士(明日の自由を守る若手弁護士の会所属) 椋(はんどう) 大樹さん

申込み・問合せ：生活者ネットワーク

2019年10月15日 発行 生活者ネットワーク 発行責任者 やない克子

〒176-0001 練馬区練馬 1-15-1-302 TEL：03-39938-4899 FAX：03-5999-4632

Web ページ：http://nerima-seikatsusya.net/

メール：net-gikai@jcom.home.ne.jp ご意見・ご質問をお寄せください

